2）保健所の乳幼児健康診査における ハイリスク児の後方視的追跡調査成績

—とくに3～4カ月児のretrospective follow up study—

青木　継稔*　　原　まどか*

保健所における乳幼児健康診査の主な目的の1つに疾病や異常状態の早期発見があり、必要に応じ早期療育・早期治療への道を開かねばならない。今年度(1990年)は，行政的に行われている3～4カ月健診の場にて，何らかの異常を有し，「要経過観察」と判断された例について後方視的(retrospective)に調査した成績を報告するとともに乳幼児健診におけるハイリスク児について考察し，これらのハイリスク児の追跡管理の項目について検討した。

対象および方法

(1) 東京都区内8カ所の保健所にて昭和61・62・63年度の3年間に実施した乳幼児健診に来所した26,193名を対象とした。一次スクリーニングにて神経学的異常，精神行動面の問題等，あるいは色々な身体的異常と判断され，二次あるいは三次スクリーニングである経過観察に来所したものについて異常状態の項目別に分類し，さらに要精密とされたものの頻度を調査した。

(2) 頭囲異常と判断されたものについて追跡調査を行った。対象は上記3～4カ月健診来所児26,193名，1歳6カ月児22,607名および3歳児23,710名，合計72,510名であった。頭囲拡大はM±3.0cm以上，頭囲小はM－2.5cm以下としたが，実際の計測値より健診医の主観と経験が主と考えられたものの集計である。

結　果

(1) 3～4カ月児の成績

表1－1，表1－2に示すごとくであった総受診児数に対する何らかの異常項目をもつ児と判断された割合は，21.6%であり実際に経過観察に来所し2回以上経過観察したものの割合は，13.4%であった。2回以上経過観察となった乳児3,500名中10.5%，総受診児に対して1.4%が要精密となり，医療機関に精検票を発行した。精検票を発行した約半数は異常なしとの返事があり総受診者数に対して0.61%が異常ありという結果であった。個々の項目については表1－1，表1－2に揚げた。

(2) 頭囲異常児の追跡調査成績

3～4カ月児健診にて頭囲拡大と判断された乳児は0.9%，1歳6カ月児0.7%，3歳児0.5%であり，頭囲小と判断された乳児は0.6%，1歳6カ月児0.6%，3歳児0.6%であった。経過観察に来所し，さらに経過観察を続ける必要

*東邦大学医学部第2小児科学教室

表1－1　保健所における３～４カ月健診のハイリスク児とその後の追跡調査成績―(1)

異常項目		総数	経過観察	要精密	要精密にてさらに異常とされた児
神経学的異常	首が座らない	192	192	6	3
	そりかえる	28	26	2	1
	身体が硬い	16	15	2	1
	身体が軟らかい	115	109	6	2
	足をふるわせる	62	43	0	0
	口唇をふるわせる	91	52	0	0
	頭の形態がおかしい	60	41	2	1
	大　頭	238	98	18	7
	小　頭	172	35	4	2
	大泉門が大きい	36	31	1	0
	大泉門が小さい	20	12	1	1
	先天異常	13	11	5	4
	その他	8	6	2	2
		(1051)	(671)	(49)	(21)
精神行動面	あやして笑わない	39	36	6	4
	泣かない	21	15	1	0
	大人しい	12	6	1	0
	追視しない	65	51	15	11
	その他	43	31	6	2
		(180)	(139)	(29)	(17)
耳鼻	難聴うたがい	12	8	2	1
	耳介変形	96	15	2	1
		(108)	(23)	(4)	(2)
眼科	追視せず視力障害うたがい	65	51	3	1
	斜視うたがい	238	19	3	2
	ひとみが白い	2	2	1	1
		(305)	(72)	(7)	(4)

があると判断された乳幼児は表３・５に示すごとくであった頭囲異常があり，精検票を発行し異常ありと判断された乳幼児の追跡調査成績は表４・６に示した。頭囲拡大のあった１例に脳腫瘍があり，乳児２例に内脳水腫と脳奇形が確認された。頭囲小は全部で６名は発達遅滞があり小頭症と診断されたがいずれも頭蓋早期癒合症や染色体異常あるいは奇形症候群ではなかった。

考　察

行政的に実施されているわが国の乳幼児健康診査は，３～４カ月児，１歳６カ月児および３歳児であり全国に普及し高い受診率を維持し地域住民に定着している。しかし，健診児の追跡調査をする際の異常状態あるいは疾病についての分類が各地区において，①大ざっぱなもの，②学問的でない，③まちまちにて比較できない，④全く統計処理がなされていないなど様々であり，全国的あるいは各地区との成績を比較でき

表1－2　保健所における３～４カ月健診のハイリスク児とその後の追跡調査成績―(2)

異常項目		総数	経過観察	要精密	要精密にてさらに異常
整形外科	斜頸	11	11	11	10
	股関節開排制限	912	396	36	3
	X脚	6	5	0	0
	O脚	139	52	1	0
	内反足	29	23	3	2
	その他	6	2	0	0
		(1103)	(489)	(51)	(15)
一般的所見	体重増加不良	623	538	26	8
	低身長	298	255	113	19
	肥満	513	410	3	2
	低出生体重児	301	291	0	0
	心雑音	36	33	9	4
	臍ヘルニア	148	120	2	0
	ソケイヘルニア	95	63	55	51
	陰のう精索水腫	109	125	0	0
	停留睾丸	61	73	0	0
	胸郭異常,その他	15	11	2	1
	肝腫．肝脾腫	23	20	2	1
	皮膚が黄色い	6	5	1	1
	その他	71	33	3	1
		(2299)	(1977)	(216)	(88)
皮膚	アトピー性皮膚炎	98	41	6	6
	湿疹	423	25	3	2
	白斑	13	4	2	1
	血管腫	68	40	1	1
	その他	30	19	2	1
		(632)	(129)	(14)	(11)
合計		5,679	3,500	369	161

（東京都区内８保健所の３～４カ月健診　26,193名の集計）

ないのが現状である。今回示した成績は，比較的熱心な方々数名の好意によって分類したものを集計したが後方視的であり不充分なものから集計せざるを得なかった。しかし，比較的多くの健診受診児からの成績であり，このような分類を詳細にした内容は従来皆無であったため集計成績の意義は極めて高いものと判断する。今後は，乳幼児健診の場に訪れるひとりひとりの乳幼児の健康管理を包括的に行うために，乳幼児健診におけるハイリスク項目を詳細に分類し，前方視的な健康管理が重要と考える。ただし，詳細に分類した一つ一つの項目についての判断基準を将来的に設定する必要がある。表７に各健診時におけるハイリスク項目の私案について示した。

文　献

1）前川喜平，青木継稔：今日の乳幼児健診マニュアル，中外医学社，東京，1989.

表2　頭囲異常の出現頻度

乳幼児区分	対象者数	頭囲拡大 M＋3.0 cm以上	頭囲小 M－2.5 cm以下
乳児	26,193	238	172
1歳6カ月児	22,607	165	138
3歳児	23,710	122	141

表3　頭囲拡大を有する乳幼児の追跡状況

	経過観察	要精密
乳児 238例	98（41.2％）	18（7.6％）
1歳7カ月児 165例	61（36.3％）	9（5.4％）
3歳児 122例	21（17.2％）	6（4.9％）

表4　頭囲拡大要精密の結果

頭囲拡大の原因別分類	乳児 18	1歳6カ月児 9	3歳児 6
大頭症：発達正常	11	7	3
大頭症：発達遅れあり CTスキャン著変なし	2	1	2
大頭症：発達遅滞あり CTスキャン異常あり	2	1	0
水頭症：軽度	2	0	0
脳腫瘍	0	0	1
脳奇形	1	0	0

表５　頭囲が小さい乳幼児の追跡状況

	経過観察	要精密
乳　児 １７２例	３５（２０.３％）	４（２.３％）
１歳６カ月児 １３８例	１８（１３.０％）	３（２.１％）
３歳児 １４１例	２６（１８.４％）	３（２.１％）

表６　頭囲が小さい乳幼児の要精密の結果

頭囲が小さい 原因別分類	乳　児 ４	１歳６カ月児 ３	３歳児 ３
発達正常	２	１	１
小頭症： 発達遅滞	２	２	２

表7　保健所における乳幼児健診のハイリスク要因—(1)

	3～4カ月児	6～9カ月児	1歳6カ月児	3　歳　児
神経学的異常	首が座らない 身体が軟かい そりかえる 身体が硬い 頭の形がおかしい 大　頭 小　頭 先天異常	お座りしない ハイハイしない 足をつっ張らない そり返る 大　頭 小　頭 先天異常 物をつかまない	歩かない 小さい物をつまめない 積み木を積めない 大　頭 小　頭	ころびやすい 走れない ○印が画けない 大　頭 小　頭
精神および行動面の異常	あやして笑わない 泣かない 大人しい 追視しない	周囲に無関心 大人しい 呼んでもふり向かない	単語が出ない 多動児 呼んでも振り向かない 周囲に無関心	ことばの遅れ 友達の中に入って遊べない 身辺自立の遅れ 多動児
耳鼻科的異常	難聴うたがい 外耳奇形	難聴うたがい	難聴うたがい	難聴うたがい
眼科学的異常	追視せず，視力障害の疑い 斜　視 白色瞳孔	視力障害の疑い 斜　視 白色瞳孔	視力障害の疑い	視力障害の疑い
一般身体所見	体重増加不良 低身長 肥　満 低出生体重児 心雑音 肝腫・肝脾腫 黄　疸 貧　血 その他	体重増加不良 低身長 肥　満 低出生体重児 心雑音 肝脾腫 貧　血 その他	体重増加不良 低身長 肥　満 心雑音 肝脾腫 貧　血 その他	体重増加不良 低身長 肥　満 心雑音 肝脾腫 貧　血 その他
皮膚所見	アトピー性皮膚炎 湿　疹 白　斑 血管腫	アトピー性皮膚炎 その他	アトピー性皮膚炎 その他	アトピー性皮膚炎 その他

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

保健所における乳幼児健康診査の主な目的の１つに疾病や異常状態の早期発見があり、必要に応じ早期療育・早期治療への道を開かねばならない。今年度(1990 年)は,行政的に行われている 3〜4 ヵ月健診の場にて,何らかの異常を有し,「要経過観察」と判断された例について後方視的(retrospective)に調査した成績を報告するとともに乳幼児健診におけるハイリスク児について考察し,これらのハイリスク児の追跡管理の項目について検討した。